

和歌山県北部を流れる紀の川の支流である紀伊丹生川の一部は、名勝玉川峡として「高野山町石道玉川峡県立自然公園」に指定され、水遊びやアユ釣りで賑わう大阪に近い紀伊半島大自然の地です。流域は、かつて鉱山開発や林業で繁栄し、今も多くの棚田が残る里山の風景が広がっている。近年シカの食害が酷くなったが、貴重な溪流沿い植物が生育し、明るい林床には、キンラン・ギンラン・ササユリ等も見られ、クマタカ・サシバ・アカショウビン・オオルリも繁殖し、カモシカも多く棲息する。2008年より、全国の里地里山の生物多様性の現状・変化をとらえるための環境省の「モニタリングサイト里地調査」に選ばれ、毎月調査している。毎年4月に大学の専門家による水生生物調査や8月にはアユまつりも開催し、流域の魅力を発信している。1990年代にダム建設が計画され、2002年に中止になった経緯があるが、豊かな自然を守り、活動を続けてきた。清らかな流れ、豊かな緑、日本のふるさとの美しい景観がそこなわれることなく地域が活性化することは、私たちの願いです。



玉川四十八石の一つ「明神岩」



手入れされた里山と棚田

泉南から海沿いに和歌山県に入るとまもなく城ヶ崎です。南海加太駅からでも徒歩約30分で、京阪神から「ぎりぎり日帰り圏」（奇跡①）といえる磯です。大阪湾の入り口に位置し、目の前に友ヶ島、紀淡海峡を挟んで淡路島、さらに徳島の山並みが見えます。なんと大阪湾のもう一つの入り口である明石海峡大橋まで見渡せます。

1996年の「海の観察会」立ち上げ時に、講師の池辺進一先生に強く勧められて城ヶ崎まで足を延ばしました。それ以来、海の観察会として約30回、ウミウシ観察会で約50回など、協会としての観察会は計100回を超えました。

ここは潮が引くと現れる岩礁や潮だまりが、絶妙の高さにあり、潮があまりひかない真冬でも安全に観察会ができます（奇跡②）。ウミウシの年間変動の調査結果が得られるのも、どこでもできることではないのです。もちろん非常に豊かな生物相が残されており、海藻だけで約100種、海岸動物が約300種（うちウミウシ類100種以上）記録されています。ここは大阪湾の豊かさの一つの象徴だと思います。



潮が満ちるとほぼすべて水没する磯



潮だまりの観察の様子